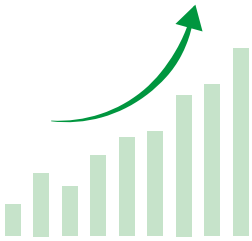
電気から土木までグループで
ワンストップの設計が可能に。

全国のダム施設、上下水道関連施設等の電気通信設備設計を主力事業とする私たち親熱電工は、2020年にNiX（新日本コンサルタント）グループ企業となりました。
今後、既設インフラの老朽化によって莫大な設計需要が予測され、
電気通信設備設計においては、NiXグループが主業とするインフラ技術サービスと一体発注される案件が増加しており、グループ内での社内リソースを活用しワンストップで業務に集中することで、ビジネスアビリティの向上を図り、クライアントの要望に的確に応えます。

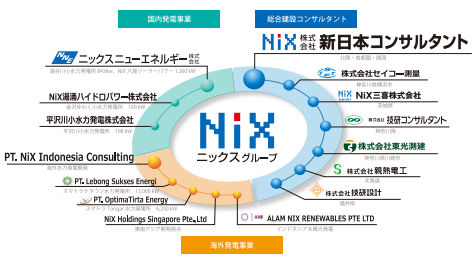
01 専門分野の確かな実績

1991年の設立以来、ダム施設、上下水道関連施設等の電気通信設備設計を主力事業とし、これまで日本全国で数多くの実績を誇ります。全国的に懸念されている既設インフラの老朽化により、今後も多くの設計需要が予測されることからも、未来を見越した設備投資と人材育成、業務能力の向上を計っていきます。



02 北海道トップシェアを獲得

サン・エレックシステムズとの経営統合により、北海道内の電気通信設備案件のシェア40％を獲得。親熱電工が築いてきた設計力・調査力に、通信設備の保守・メンテナンス力、ダム設備・局舎設備、防災・消防無線設備設計のノウハウが加わり、電気通信インフラ整備の分野で競合他社との差別化が実現しました。

03 ワンストップでの一体受注を実現

電気通信設備設計、NiXグループが主業とするインフラ技術サービスと合わせ、ワンストップで受注が可能になり、ビジネスアビリティの向上を図ります。NiXグループの連携によって、電気通信設備設計だけはなく、道路、橋梁、上下水道など社会インフラ整備にかかる設計をワンストップで行えることで、私たちのノウハウと実績を最大限に活かすことができます。